



EUのラグビー：シックスネーションズについて

ラグビーの強豪国と言われたらどの国を思い浮かべるでしょうか。多くの方はオーストラリア・ニュージーランド・南アフリカなど南半球の国々を想起すると思います。ですが、世界ランキングをみると上位10か国中5か国を欧州が占めているのです！そもそもラグビーの起源は19世紀前半のイングランドにあるとされています。欧州ではサッカーだけでなくラグビーもまた国民に広く愛されているスポーツと言えるでしょう。

EU圏内では、計20のクラブで競われる欧州ラグビー・チャンピオンズカップと、イングランド・スコットランド・ウェールズ・アイルランド・フランス・イタリアの6か国で行われる国別代表戦の**シックスネーションズ**があります。シックスネーションズは毎年2月初旬から3月下旬にかけて行われる計5試合総当たり戦で、**国同士のプライドをかけた代表戦**として冬のラグビーシーズンの代名詞となっています。1882年に始まった第1回大会は、イギリス4か国間で行われました。1910年にはフランスが加わり、2000年からはイタリアも参加しました。2017年はイングランドがグランドスラムを逃したものの連覇を達成しました〔下記順位表参照〕。

順位	チーム名	試合数	勝	分	負	得点	失点	得失差	BP	勝点
1	イングランド	5	4	0	1	146	81	65	3	19
2	アイルランド	5	3	0	2	126	77	49	2	14
3	フランス	5	3	0	2	107	90	17	2	14
4	スコットランド	5	3	0	2	122	118	4	2	14
5	ウェールズ	5	2	0	3	102	86	16	2	10
6	イタリア	5	0	0	5	50	201	-151	0	0

※ベースボール・マガジン社「シックスネーションズ 2017」ラグビー・リパブリック
http://rugby-rp.com/n_league.asp?code_s=100010001001（最終閲覧日：2017年6月26日）
 ※『ラグビーマガジン』2015年4月号、pp.136-139

2018年大会の見どころ

- ・近年圧倒的強さを見せるイングランド、過去の優勝回数は38回。
- ・そのイングランドに優勝回数で並ぶのがウェールズ。イングランドとの一戦は伝統の一戦として毎年注目される（過去57勝61敗）。
- ・2017年大会で唯一イングランドを破ったのがアイルランドで2位で終わった。
- ・ワールドカップで日本を破ったスコットランドはダークホース的存在！
- ・フランスはワールドカップで準優勝3回の名門、2017年の開幕戦ではいきなりイングランドと対決。後半30分に逆転され惜しくも3点差で敗れた。
- ・ワールドカップには全大会連続出場を続けている古豪イタリア。唯一まだ優勝がなく最下位が定位置となっている。2018年大会では意地を見せられるか。



私にとってのラグビー

ラグビーの魅力は第一に1対1にあると思います。
その瞬間はお互い逃げる事が許されません。

**タックルで仕留めるのも、
ボールを持って思いっきりぶっ飛ばすのも
どちらも病みつきになります！**

ラグビーは痛い、きつい、しんどいという点で
理不尽を極めたスポーツです。炎天下でも
豪雨の中でも練習や試合があります。
600回以上の練習の中で中止になったのは
記憶にある限り雷の2回だけです！
だからこそ、生まれる部員同士の結束力は
ラグビーの魅力の一つではないでしょうか。



本の紹介

スポーツ社会学の観点からラグビーのオフサイドや楕円球の起源について分析している図書資料を2冊紹介します。スポーツのルールや道具に関する歴史的変遷には合理化や商業化といった要因が関係していることが分かりやすく説明されています。

①中村敏雄『オフサイドはなぜ反則か』
(平凡社、2001年)

☞本館2階【0800:36:415】

②守能信次『スポーツルールの論理』
(大修館書店、2007年)

☞本館3階【7800:1431】



自己紹介

- ・夏目諒平 @スタ丼
- ・社会学研究科・修士課程1年
- ・高校は文化部でしたが、様々な経緯を経て大学からラグビーの世界に入りました。苦難は何度もありましたが、ラグビーをやり続けたことは人生の糧になっています！一橋はスポーツ社会学の講義も充実しています！一度履修してみてください！